個人山行報告書

通算山行NO	ＮＯ．１４４１	報告者	後藤隆徳
年　月　日	２０１１年1月９日（日）～１０日（月）	２万５千	金峰山
山　　名	奥秩父・金峰山（２５９９ｍ）		
体力度＝３・普通　技術度＝３・普通　道標＝ある　駐車場＝ある　トイレ＝小屋 展望度＝よい　三角点名＝金峰　等級＝三等			

モーレツな地吹雪の山

コース とタイム	１日目＝下土狩発６：００―双葉ＳＡ―廻目平発９：３０－西股沢―金峯山小屋着１２：４５－金峰山頂上着１３：３５－金峯山小屋着１４：００ ２日目＝金峯小屋発６：１０－金峰山御来光６：５５－金峯山小屋７：２０～８：３０―廻目平着１０：１０－たかねの湯－下土狩着１６：００
標　高 差	廻目平約１５００ｍ～金峰山２５９９ｍ＝約１０９９ｍ
参　加者	Ｌ後藤隆徳・村山忠彦・ほか３名

このところ冬山はリバイバル山行が多い。金峰山は９５年１２月３０～３１日、冬山合宿として５名の参加で行われた。今回はそれ以来。

当時は１月に８名で八ッ・天狗岳、１２名で富士山・二ッ塚。２月は６名で笠取山と冬山登山は盛んだった。１６年前、まだ皆さん若く元気いっぱいだった。

９日（快晴・小屋外で－１５度）

車は清里から千曲川源流を遡る。寒波襲来で気温は低く、流れのある千曲川が凍っていた。金峰山荘前に車を置き登山開始。

雪量はこの所、冬型が強く降雪がなく少ない。順調にピッチを重ね金峯小屋着。この小屋、山名は金峰山だが何故か、金峯小屋。また呼称も、甲州は「きんぷさん」だが、信州は「きんぽうさん」。エベレスト・チョモランマ・サガルマータと同じで地方で呼び方が違う。

明日、大寒波予想なので、とりあえず今日登頂を果たすべく出発。小屋上はモーレツな地吹雪。ルート目印の赤布が真横になびく。特に五丈岩の鞍部は凄い風。

ヨタヨタしながら登頂。写真撮影の手がもどかしい。寒いのですぐ下山。小屋に入る。１６年前あった大きな囲炉裏はなく、中型の薪ストーブになっていた。ただ、薪を沢山燃してくれないので、暖かくない。

奥の炬燵に潜り新年会。持ちあげた１．８Ｌのワインが美味しかった。

１０日のご来光

頂上でボンダラゲ～

頂上の標柱

10日（快晴・小屋外で－20度）

小屋の寝床は二階だったが、蒲団が冷たく寒かった。夜半にトイレに起きた時、降雪だったので今日は駄目かと思ったが、「星空です」の報告に５時起床し再アタック。

朝食は１６年前と同じ登頂後。従って登頂は「朝飯前」になる。今朝は寒く小屋外の寒暖計は－２０度だった。－１５度位はしばしば経験するが２０度は余りない。そして今朝も昨日以上のモーレツな風が吹く。

管理人の話では御来光は７時頃とのこと。それに合わせて出発。強風で昨日のトレースは消えていた。ヘッドランプで適当に上って行く。五丈岩鞍部に着くと東の空がようやく白んで来た。ところがこの御来光、何回も経験しているが出そうで中々出ない。その間、寒風にさらされ寒いことおびただしい。

陽が上がった。皆は万歳をしている。私は手を合わせ「般若心経」を一心に唱えていた。いつも願うのは、「平和」「安全登山」「自然保護」である。顔写真を撮影し、後で見たら目出帽が「ボンダラゲ―」（山形弁でツララのこと）状態だった。

小屋に戻り朝食摂る。「オジヤ」だった。ただ、不味くはないが、腹に溜まらないのが難。おかずはトッピングで小皿に並んでいる。キムチが欲しいと思ったが無かった。しかし、後で管理人の食事を見たら、しっかりキムチがあった。（ったく～！！）

下山し清里に向かうが車の調子が悪い。上りで３６００ＣＣが軽に抜かれた。やっとスタンドに着き相談したら開口一番、「ああ、燃料が凍っているよ」だった。あの寒さなら納得。清里を下り。温泉を出るころには、すっかり元に戻っていた。